

# 保護者が子どもの運動教室の入会に関する決定要因について

—性差・年齢・障がいの有無からの考察—

## Factors Affecting Parents' Decision on Enrolling their Children in Exercise Clubs: A Study by Means of Sex, Age and Disability

金子 勝 司\*・大 月 和 彦\*\*

Shoji KANEKO, Kazuhiko OTSUKI

**要旨：**本学で開催している子ども運動教室（以下、適宜「運動教室と略記」）は、健全な子どもと障がいのある子どもが一緒になって行うインクルーシブ教育を実践しており、また集団でありながらマンツーマンでの指導を実施していることなど他の教室にない特徴を持っている。本研究では保護者の入会に関する決定要因について、性差・年齢・障がいの有無から考察を行った。調査方法は、その運動教室の参加募集の際に行った『入会の目的・動機』（自由記述）のアンケートにおいて、記載された内容について考察を行った。結果、保護者が運動教室の入会に関する決定要因において、健常児にとっては好きな運動の機会と技術向上として、障がいがある子どもにとっては、運動機会だけでなく社会適応の場として活用していることが明らかになり、教室運営において個々に対応できる仕組みを作ることがインクルーシブ教育の実現に重要であることが明らかになった。

**キーワード：**運動教室，入会動機，子ども，インクルーシブ教育，発達障がい児

### 1. 諸言

ベネッセ教育総合研究所（2009）によると、「この1年間で、お子様が定期的にしていただいていた運動やスポーツがありますか。」の問いに対し、3歳児18.6%、4歳児31.8%、5歳児52.0%、6歳児63.9%、小学1年72.2%と5歳児の段階で約半数を超えたと述べている。その活動内容の上位は、スイミング28.4%、サッカー15.3%、体操・運動遊び10.3%であった<sup>1)</sup>。久本、三笠（2003）によると、幼児期の運動系習い事の動機・目的は「健康のため」（以下健康と記述）「体力づくり」（以下体力と記述）「集団行動に慣れさせる」（以下集団生活と記述）「技術を身に着ける」（以下技術を記述）の4つを上位であると報告している。また、どの年代においても1位「体力」2位「健康」が半数を占め最も多いと記されている。性別では、男子は「健康」よりも「体力」の動機が強いが、女子は男子ほど明確ではなく「健康も、体力も」という動機が窺われる。年少児は「健康」「体力」「集団生活」「技術」といった動機すべての割合が、年中や年長に比べて高いという結果であった<sup>2)</sup>。永吉（1976）によると、直接的な動機となった入会要因は、健康面では「一層丈夫に」、技術面では「泳げるように」、パーソナリティ面では、「根性・頑張りがきく子に」と記されている。これを対自的・内向的躰への期待とし、半面、「礼儀正しい規律ある子に」「もっ

\* かねこ しょうじ 客員研究員・大阪体育大学教育学部

\*\* おおつき かずひこ 文教大学教育学部

と上手に泳げるように」等の技術的・対社会的・外交的躰の期待は低いと分析している<sup>3)</sup>。また、萩原（2000）らは、サッカースクールに子どもを加入させた保護者の期待について、身体的意識、精神的意識、社会的意識の3つの観点から、身体的な形態面での期待は低く、忍耐や時間や約束を守る習慣、責任感を養うなどの期待と友達と仲良くするなどの協同性を養うことへの期待が高いことを報告している<sup>4)</sup>。また、発達障害を持つ子どもたちは、通常の地域で行われているスポーツクラブや運動教室にうまく順応できないことも多く、結果自ら辞退を申し出たり、参加を断られたりするなど活動領域が少ないことが多く報告されている<sup>5)</sup>。そのような子どもたちが多く利用している施設が児童デイサービスであり、近年急激にその数を増やしている。みらいジュニアの報告（2017）によると、2012年から開始された放課後等デイサービスの利用者は、2013年時点で5万44,819人だったのが、3年後には12万52人と2倍以上に増えており、その中でも運動指導に特化した個別対応型プログラムの放課後等デイサービスが非常に人気があると報告している<sup>6)</sup>。よって本研究では、保護者が子どもの運動教室の入会に関する決定要因について、性差・年齢・障がいの有無から考察を行う。本学で実施している子ども運動教室をフィールドとし、その理由として健常な子どもと障がいのある子どもが一緒になって行うインクルーシブ教育を実践しており、また集団でありながらマンツーマンでの指導を実施していることなど他にない特徴を持っていることにある。先行研究においてもインクルーシブ教育における運動教室の入会動機に関する文献は少ない。このことから保護者の方たちはどのような動機・目的から本教室を入会を希望しているか調査を行い、得られた結果から、今後の教室運営の在り方とインクルーシブ教育の可能性について考察する。

## 2. 子ども運動教室とは

2011年より本学で年2回開催（1教室10回プログラム）している「子ども運動教室」（以下、適宜「運動教室と略記」）は、健常者と障がいがある子どもたちが一緒に遊び楽しめるインクルーシブ教室を実践している。多くの学生スタッフと専門教員等が関わり、その子どもに合った運動プログラムを考え、実践指導を行っている。走・跳・投といった基本動作の習得、また、運動が苦手な子どもに対して、その問題を把握し、運動の基本を教えることで課題をクリアしている。障がいのある子どもには、保護者との面談を通し、不安要素をヒアリングしながら、それぞれの子どもに適した運動プログラムを考え、弱点を克服し体力の向上を図っていく内容である。

## 3. 研究方法

①調査方法：平成29年度に本学で開催した『運動教室』。

12・13期に参加した4-7歳の子ども（58名）の保護者に対して、質問紙による調査を実施。

②開催日：12期：H29・4/18～6/27（週1回計10回）・13期：10/5～12/14（週1回計10回）

③質問項目：『入会の目的・動機』の欄の自由記述の記載内容について考察を行う。

④集計結果：44名/58名（男性保護者 2名 女性保護者 42名）【回収率76%】

⑤分析方法：自由記述で得られた回答内容をもとに、性差・年齢・障がいの有無から考察する。

## 4. 結果

表1の4.5歳児男子の保護者の回答をみると、「運動が好きな子どもに環境・機会を与えたい」といった回答内容が圧倒的に多く、次いで「体力・体格が小さいことへの不安」、体の使い方のぎこちなさからくる「身体能力への不安」、鉄棒等の「技術的な不安」といった身体面に関する回答、また「自信や挑戦する心」といった精神面の克服、保護者自身が「子どもに対して教え方がわからない」といった指導方法に関する等の回答が多くみられた。以上の事から運動機会の獲得、運動が苦手や性格的不安を抱えている子どもの弱点の克服機会とした入会動機があることがわかった。表2の4.5歳児女子の保護者の回答をみると、日頃の運動機会・実施頻度の少なさ

表 1. 4・5 歳児男子の保護者の回答（幼・保年中クラス）一部抜粋

no	name	参加動機
1	KK	力が弱い。不器用。力の入れかたがわからない。
2	KR	身体活動は大好き、ボール投げが苦手で遊ぼうとしない。上手く教えることができず困っている。集団で体を動かし運動好きになれれば良い。
3	TK	同年齢の比べ身長体重共に小さく体力もなく、身体を動かすのは好きだが怖がりな面もある。控え目なので元気に何にでも挑戦してほしい。
4	ZT	近所や周りに友達もいないので、体を動かしたり遊ばせてあげられていない。沢山の友達と一緒に運動することですごく刺激になる。
5	YR	体を動かすのが好きだが、なかなかそういった機会を与えられていないので、運動する楽しさを教えていただけたら嬉しく思います。
6	NT	習い事では私から離れるのに時間がかりレッスンを受けられない事が。大好きなスポーツを通して、心も強く成長してほしい。
7	NM	体を動かすこと、走ることも好き。球技や縄跳び等、道具を持って行う運動が特に苦手。ボールをうまく投げられない。園に雲梯でも中々前に進めず苦心。できないことへの悔しさをばねに、不得意な面をどのようにして克服していけばいいのか、親子共々、悩んでいる。
8	FK	高い所が苦手で公園に行っても遊具を登ったりすることができない。左利きなのでボールを投げる時などどう教えていいかわからない。なかなか公園にも連れて行けていなかったので運動全般が苦手。運動教室で少し克服できたら。
9	YR	少しシャイ、初めての環境や慣れない場所ではあまり自分を出せず、幼稚園でも1年たつてようやく友達とも少し遊んだりできた。教室を通して楽しみなが自信をつけて、いろいろなお友達に関わり、体を動かすことの楽しさを知ってくれたら。
10	YK	身体を動かす事が大好きで、体力を持って余すほどの日々を送っている。ですが非常に体が固く、走っていてもすぐ転ける、常に生傷、捻挫がたえません。もっと色んな身体の動かし方があるのを学ばせていただきたい。
11	KK	前回、骨盤の歪みを指摘して頂き、教室終了後もトレーニングをさせて頂き本当に感謝。最近は鬼ごっこで走り回っていますが、一人だけよくこけています。左右の肩の位置も歪んでいます。
12	TY	戦隊者ごっこから、前回の運動教室の参加でボール投げや鉄棒など積極的に取り組む。縄跳びや跳び箱ができない。園の縄跳び大会で連続跳びができず悔しい思い、家で教えても姿勢が悪く跳べません。先生たちのゲーム感覚で出来る楽しい指導を受けたい。
13	SE	軽い側弯症。普通に運動、生活はできますが体の為にこのような体操をさせたいと思ひ応募。また、恥ずかしがり屋なので挨拶やみんなの前でいろいろな事に挑戦することなど色々体験させて少しでも自分に自信を持ってくれたら…と思っています。
14	TK	前回も参加。同年齢の子供に比べ、身長体重共に、小さくまた体力もあまりないが、身体を動かすのは好きです。怖がりな所。少し控えなので元気に何にでも挑戦して。後、先生やお友達をしている様子を見ない事があります。どんどん注意して下さい。
15	YR	引っ込み思案、慣れない環境や初めての事、人と馴染むまでに時間がかかる。少しでも自信をつけて積極的になってほしい。
16	TA	運動教室経験なし。走るフォームが悪い。親がアドバイスしても、伝えないのか身に付きません。性格は慎重なところがあり、新しいことに取り組むことに時間がかかるが、達成感を味わうことで前向きにはなれるタイプ。

表 2. 4・5 歳児女子の保護者の回答（幼・保年中クラス）一部抜粋

no	name	参加動機
1	TN	みんなで体を動かす経験があまりない。皆で体を動かし関わる中で、自分を出して楽しんでくれる場になったらいいな。
2	MT	ボールを使う運動が苦手、人見知りがかかりあるので、教室で少しでもいろんな人たちとコミュニケーションが取れたら。
3	YK	特に体力がなく、少し歩いたら疲れたって言って座りこむ。来年、小学生なので心配。また私が今妊娠中で体を使った遊びになかなか付き合せてあげられないので参加。
4	SH	運動が大好き、幼稚園ではあまり教えてくれない。教室プログラムに大変興味を持っている。少し恥ずかしがりやで、集団生活に飛び込むのに少し時間がかかるので、その点を克服してほしい。
5	NK	ボールをキャッチしたりするのが、うまくできない。集団行動が苦手で、人の話を最後まで聞いてない。
6	NR	人見知りあり。運動も苦手、教室で運動はもちろんの事ですがたくさんの人と関わりをもって色々な事も学べたら。
7	DA	球技が苦手で、うまく投げるコツがわからない。生まれつき右足の関節が柔らか過ぎて、左右のバランスが少し悪い。
8	YK	内向的な性格であまり自発的ではないので、運動を通して、自発力、持久力を身につけて欲しい。
9	TN	普段から運動する機会や友達と外遊びをすることが少ない、みんなで運動することの楽しさを感じてほしい。苦手なことは自分からなかなか取り組めない、できないことにも楽しくチャレンジしてほしい。特に跳び箱となわとびはできない。
10	OK	集団行動に馴染むのに時間がかかる、自ら積極的にしようとしな。ドッチボール等も常に逃げるのみ、積極性を身につけてほしい。ボールを投げると前に飛ばせず、下に打ち付ける感じになる。
11	KN	明るく活発な子、怖がりな為なかなか新しいことに挑戦するのが苦手。住環境的に外遊びできる機会があまりなく毎日家の中での遊びが中心になってしまっている。体操教室で楽しく身体を動かし、出来ることが増えるといいな。
12	SY	走りが遅く運動会ではドリ。鉄棒が怖く両手で下にぶらさがることしかできない。スキップが苦手。縄跳びは1回しか飛ばない。運動が苦手ですが前回運動教室に楽しんで通うようになりました。
13	FA	体を動かすよりテレビやスマホで過ごすことが多い。教室を通じて体を動かす楽しさを感じられれば嬉しい。
14	KN	縄跳びができない。年長の間に数回でも飛べるようになれば。活発な反面警戒心が強く、用心深い所もあり挑戦が苦手、どのように教えていいかわからない。「頑張ってる練習すれば出来ないこともできるようになる」と言う体験をして欲しい
15	BK	身体が細く運動が苦手、見ていてヒヤヒヤとする場面が多々みられる。本人は身体を動かす事が好きで、教室を通して自信を持ち、今以上に運動が好きになってくれると嬉しい。

からくる「技術的な不安」といった回答内容が圧倒的に多く、次いで「内向的な性格の克服機会」、「身体面での不安」といった回答内容が多く、子どもが好きな運動を通して心身の克服機会としてとらえていることがわかった。

表3の6歳児男子の保護者の回答をみると、鉄棒等の運動技術の向上を求める回答内容が圧倒的に多く、次いで前回の教室でできないことができるようになった、運動を楽しくやっていた等の理由で「前回の運動教室に対する良い評価」といった回答内容が多かった。以上の事から、楽しい指導を通して小学体育への対応を求めるか要望が強いことがわかった。表4の6歳児女子の保護者の回答をみると、「運動の技術的な不安」「運動が苦手」といった運動技術に関する回答内容が多くみられ、次いで「前回の運動教室が良かったから」「運動が好きなので楽しさを実感してもらいたい」「運動を通して挑戦する心や自信をつけさせたい」といった精神的要素の回答も多く

表 3. 6 歳児男子の保護者の回答 (小 1.2 ラス) 一部抜粋

no	name	参加動機
1	YK	前回は不安だった走り方の事で、教員の方に気に留めて頂き、また丁寧に楽しく指導して頂いたのが、本当に良かった様で、前回教室が終了した後も前転や縄跳びを頑張り練習しております。まだまだ楽しく体操を教えていただきたいと本人が希望。
2	SK	前回参加。人より少しでも出来ない泣いて投げやりになりもう少し運動に自信を持てるようにしてあげたい。
3	SK	ヤル気はあるのですがコツを掴むことが難しく、その場限りの練習になってしまい結局できないことは出来ないまま。教室でマットの前回り、鉄棒の前回り、スキップはやっと出来るようになった。
4	KY	体操が好きで、走り方がすぐ女の子みたいな走り方、直そうとしない幼稚園年長でリレーがあり、すごく不細心な走り方をしているの、走り方を教えていただきたい、前回教えてくださったスキップも時間がたつとおかしくなっている。ボールの投げ方、友達との接し方等、兄弟がいらない分力の加減などがわからず、順番を守ること、幼稚園の年長なのでもう少し団体で動くことを学んで欲しい。
5	IA	7月から校区のスポーツ教室に通っている。指導は少し厳しめで難しいと弱音を吐きます。8月に市内の小1、2を対象とした水泳教室に行ったのですが、その時も体大の学生さんに教えて頂きました。それも有り体大の学生さんとなら頑張れる。子供からは「逆上がりとか、まだできないことの方が多くからもっと練習したいです。」とメールに添えて欲しいと言われました。
6	OK	ジャンプで、足底全体でジャンプする感じで、ドスンとした高さのないジャンプになる。柔軟性がない。上半身と下半身の連動した運動が理解できない。運動時のジャンプや力の加えどころのタイミングがとれない。ブランコの立ち滞り、スタート時の蹴り出し等。
7	SK	体が異常に固く柔軟性がない。縄跳び、鉄棒、スキップなどが幼稚園レベル。運動は好きなので人並みの運動能力を身につけさせたい。
8	DK	リズム感がない事。走るのも早くない。フラフープや跳び箱や走る事がリズムよく出来たら良いな。
9	MA	ボール投げが上手くなり嬉しかったがもっと遠くに投げたい、逆上がりができないのでできるようになりたい！と意気込んで。
10	MK	一人っ子的なため運動に関しては親として何から教えるのが良いのか、本人の能力などなかなか見極める機会もなく、この体験を通じて運動の楽しさや興味を持ってもらえたいと思います。普段身体を動かす事は好きなので。
11	OY	逆上がり、棒登り、縄跳び等出来ない。身体を動かす事は大好きですが、全般的に運動オンチです。筋緊張が弱い。手先が不器用。
12	YS	体を動かすことは大好きですが、縄跳び跳び箱など複数の動作を一緒にしなければいけない運動は少し難しい。
13	KK	体の使い方がうまく出来ない。恐怖心が強い為、色々な運動をするときに、腰がひけている。体を動かすことは、大好きで、いつも楽しそうに遊んでいるので、体育も得意になって欲しい

表 4. 6 歳児女子の保護者の回答 (小 1.2 ラス) 一部抜粋

no	name	参加動機
1	MK	前回も参加、毎週大変楽しんで運動能力も向上。(ボールの飛距離が伸びた。)鉄棒(特に、逆上がり等)とマット運動(前回り、後ろ回り等)が苦手で前回うまくできなかったので、できるようになれば、参加できることを楽しみにしております。
2	YR	動かすのが好きですが、そういった機会を与えられていないので、運動する楽しさを教えていただけただけ嬉しく思います。
3	DR	運動が大好きですが、幼稚園ではあまり教えてくれません。プログラムに大変興味を持っていて応募。特に基本運動や縄跳びやマット運動等とても興味深い。少し恥ずかしがりやで、集団生活に飛び込むのに時間がかかるので、そこも克服してほしい。
4	SM	ボール投げが少し苦手です。この機会です更にステップアップできたら良いなと思っています。
5	SK	普段から運動をする機会が少ないため体力をつけさせたいので応募しました。
6	YR	体を動かすのは好き、自分の苦手なことにはあまり挑戦したがらない所がある、普段見てて団体行動が得意じゃない、教室を通じてできることが増えた喜びや協調性を身につけてくれたらなと思応募。
7	YR	体を動かすのは好きなのですが、自分が苦手だと思ったものにはあまり挑戦しない所がある。前回の教室でいろいろ丁寧に教えてもらえ逆上がりができ少し自信がついたよう今回も自信をつけて積極的にできるように変わってほしいと思応募。
8	HY	3人ともスイミングを始め、最近体を動かす事が好きになってきたよう体操教室は初めてですがよろしくお願致します。
9	FN	腕や足などの力が弱く、運動全般がとても苦手。鉄棒、跳び箱なども苦手、力がなく体重を支えきれない。落ちるのが怖いようで、なかなか積極的にチャレンジできない。ボールを投げたりするのも苦手。走るのもマイペース、腕や足、走り方も気になる。恐怖心など、何か少しでも克服させてあげたい。
10	YK	特に運動が苦手。鉄棒、跳び箱、縄跳び等何もできなくて困っている。家では運動する気が全くなく機会があればと思応募。

みられた。

表5の障がいのある男子の保護者の回答をみると、「運動が好きであるが苦手」「集団活動が苦手」といった発達障害によるコミュニケーションへの不安や体の使い方の不器用さへの不安といった回答内容が多く、運動や社会生活の面での苦手な事への克服機会として、また運動を通して自信と挑戦する気持ちを持たせたいといった精神的要素の克服を期待している回答が多かった。表6の障がいのある女子の保護者の回答をみると、男子同様に「運動は好きだけど苦手」「体をうまく動かせられない身体能力面での不安」「対人関係・コミュニケーションの不安」「障害があることで運動機会がなかった」等、多くの保護者が発達障があることによる運動機会の少なさ、運動の技術面、社会適応能力への不安といった克服機会としてしていることがわかった。

## 5. 考察

男子の年齢の違いをみると、4.5歳児男子の保護者は、「運動が好きで子どもに対して環境・機会を与えたい」「体力がないことや体格が小さいことへの不安」等から入会を希望するといった傾向があることが明らかになり、6歳男子の保護者の小学校体育で直面している運動の技術的な向上を希望する内容とは違いが見られ、就学前後で大きく違いが分かることが明らかになった。また障がいのある男子保護者では、障がいのある女子保護者と同様に運動を通して体の使い方やコミュニケーション能力や集団活動といった社会適応できる能力を身につけさせたい

表 5. 障がいのある男子保護者の回答 一部抜粋

no	name	age	参加動機
1	SA	3	先天性の心疾患。生後から治療や手術で入院を繰り返しているために発達はかなり遅れている。保育所加配付き、この1年で大きく成長したが運動面に関してはまだ苦手なことも多い。運動も好きなことで出来る範囲で楽しく取り組めたら。
2	IH	6	発達障害があり、療育手帳B1。前回から、集団でも少しずつ楽しむことがわかりだし、最近では同年代のお友達とも関わりたいという思いが芽生えた。引き続き今期でもその楽しさと、お友達との距離感をパートナーの先生たちに介していただいで、学んでくれたらと思います。
3	NT	4	療育手帳B2判定。軽度知的障害と診断。つたない言葉でやっと対話ができる。PTの先生から体の使い方が不器用、手と足の協調性が少し鈍い。初めての事には消極的。体を動かす楽しさやルールがある事、運動にまつわる道具に触れたり体験をして、自信に繋がれば嬉しい。
4	TS	4	自閉症と診断、週4日の療育と月1回クリニックで心理とSTの通院。重度のA判定。人が多い場所が苦手、発語が無い為上手く気持ちや意思が伝えられない。運動では模倣が難しい。前回参加し初めてチームに参加出来る様になった。毎週楽しかった様で、自信をつけ色々チャレンジしてほしい。
5	ZT	5	前回も参加。左目の弱視、1日3時間右目にアイパッチをしながら矯正。同級生が近くにおらず、遊ばせる場所も近くになく平日保育園が終わると自宅に帰ってテレビを見たりして過ごしている。本当は外で走ったり公園に行ったり体を動かしたりして遊ばせてあげたいのですが中々できていない。
6	SD	6	1年生から支援学級に入っていて鉄棒、縄跳び、スキップなどが苦手なので是非運動教室に応募したいと思いました。
7	OR	3	生まれつき心臓に疾患、入院の繰り返しで発達に障害があり運動面も経験不足である。体を動かす事が苦手ですが人と関わるのが好き。
8	DT	3	前回も参加。運動に苦手意識が強かった息子も、少しずつですが運動が好きになった。何より運動教室がとても楽しかった。ただ、息子自身が運動に対して自信がないようで本人から運動教室を希望。人見知りがあるので、運動を通じ人との関わりを増やす事で、自信をつけさせてあげたい。
9	MK	5	発達に遅れ、3歳から幼児教室に通所。来年度も幼稚園は断念し幼児教室での療育を選択。ある程度の会話はできるが、「自分の世界」優先の傾向にあり、指示が入りにくい事がある。理学療法士は、体の使い方について経験不足な点が多く、腹筋背筋、握力等、全体的に弱いと指摘。
10	NT	5	前回も参加。2年通った幼児教室を修了し、4月に認定こども園に入所。前期でも場の雰囲気になれるにも時間がかり、皆人と同じ事をするにはハードルが高かった。せめて同じチームが高かった。新しいことにチャレンジし、人との繋がりが変わることが大事なので是非参加できれば。
11	NT	3	幼児教室2年目。療育手帳B2判定。軽度知的障害と診断。つたない言葉ですがやっと対話できるようになった。PTの先生から体の使い方が不器用、手と足の協調性が少し鈍い。運動にまつわる道具に触れたり体験をして、「やってみよう!」「できた!」という自信に少しでも繋がれば嬉しい。
12	OM	5	療育支援を受けている。体を動かすことは好きです。また色々な人に触れ指すことも社会経験を積ませる上では大切だと考えております。
13	HI	5	OT、STの訓練。自閉症スペクトラム中度。運動が好き、走る、飛ぶが好き。ほとんどの言葉がでていない。コミュニケーションがとれず、言っている事の理解はある程度できる。新しいことにチャレンジし、人との繋がりが変わることが大事なので是非参加できれば。
14	DT	7	前回も参加、息子は人見知りがあるので、運動を通じ、人との関わりを増やすことで、息子に自信をつけさせてあげたい。
15	NS	6	体を動かすのが好きですがどうやったらその動きになるかわからないみたい。人のマネをしないと動けないみたいです。発達障害の病名あり。
16	AD	7	支援学級。鉄棒、縄跳び、スキップ等が苦手。保育所の時参加させてもらい前回りができるように今回も期待をもって参加できたらと思います。
17	MK	6	発達の遅れあり、通常4歳児と比べかなり幼い。体の使い方まだまだ経験不足。指示が入りにくく、基本的に集団行動ができない。

表 6. 障がいのある女子保護者の回答 一部抜粋

no	name	age	参加動機
1	YM	3	発達障害の診断はグレーゾーン。協調運動性障害の疑い。コミュニケーション、認知、言語面での遅れはほぼないが、運動面の発達がかなり遅い。目と体の運動、体の動かし方が苦手。指の動かしにぎこちなさがあり、ダンスなどでどう動かしていいかわからなくなってしまふことがあるタイプ。本人は苦手ながらも体を動かすことは大好き。扁平足。
2	YS	6	運動は苦手で、やる気になっても出来ないことで諦めがち。目の遠近調節も苦手、近くを見ていて遠くを見直す際にピントが合わせにくい。また、指示が多少入りにくい面あり。(言語のやりとり意思疎通は可能) 本人も前回の運動教室を楽しく通っていました。
3	YS	3	簡単な動作(登り棒、鉄棒やマットの前回り等)はこなせるのですが、縄跳びや跳び箱など少し複雑になると息子にとっては理解が難しい。体を動かすことがとても好きなので、できないことがあると息子ももどかしそう。療育手帳ではB1判定。
4	TS	3	兄の療育の為、1歳から保育園に通園。他の子より言葉が遅く発達指導員と現在相談中。耳が良いので一度で言葉を模倣して返すことが出来る。多動の傾向、じっとして待つことが苦手。今回の教室でコミュニケーションや人の距離の置き方、「先生の説明をじっと聞く」や「順番を守る」というルールを私以外の方に教えていただきたい。運動が好きなので、兄と一緒に。
5	ZM	3	眼科で強度の弱視、先月7月から眼鏡をかけながら視力矯正。左右の視力差があり、アイパッチをしていくことになる。園から帰ってきて、まだまだパワーが有り余っているのか家の中や廊下などで兄と二人で、あちこちばたばた走り回っています。いつ怪我するかとこちらはヒヤヒヤしています。
7	FY	4	集中力がなく走るのも何するにもやった感が無い。いい経験になるかと思えます!
8	YA	5	協調運動障害の疑いがあります。12期も兄妹でお世話になりました。13期も参加したく応募。
9	OF	8	運動が本当に苦手。すぐ疲れやすく、筋肉がつきにくいと言われたことがあります。
10	OR	6	生まれつき心臓に疾患があり、入院の繰り返しで発達に障害が出てきて運動面も経験不足な事が多い。体を動かす事が苦手、人と関わるのが好きです。

といった要望があり、健常児との違いが明らかになった。一方、女子の年齢の違いをみると、4、5歳児女子の保護者では、子どもが好きな運動を通して心身の克服機会としてとらえていることがわかり、6歳女子の保護者は、6歳男子と同様に小学校体育で直面している技術的な向上、苦手の克服を入会動機としており、女子においても就学前後で求める要望に違いがあることが明らかになった。以上の事から、保護者が運動教室の入会に関する決定要因において、性差・年齢・障がいの有無からみて違いがあることが明らかになった。しかし運動を通して自信と挑戦する気持ちを持たせたいといった精神的要素の克服を期待していることは共通する内容であった。健常児にとっては、運動する機会と技術向上として、障がいがある子どもにとっては、技術面だけでなく集団活動等の社会適応の場としての条件を満たしていくことがインクルーシブ教育における教室運営に重要であることが明らかになった。

## 参考・引用文献

- 1) Benesse 教育研究開発センター (2009)「学外教育が集うに関する調査」子どものスポーツ・芸術・学習データブック pp8-10
- 2) 久本信子・三笠友紀恵 (2003)「子どもの習い事の現状：性、年齢、居住地域との関連」夙川学院短期大学研究紀要 27, 29-51, 2003-03-25
- 3) 永吉宏英 (1976)「子どものスイミング・クラブ入会要因の分析」体育の科学 26, pp431-435.
- 4) 水上博司・高橋義雄 (2000)「スポーツスクールに子どもを通わせる保護者の期待に関する研究—名古屋グランパスエイトと明和町スポーツ少年団の比較—」スポーツ産業学研究, Vol.10, no.1, pp59-73
- 5) LITALICO 発達ナビ (2017)「障害児は「入会お断り」。傷つく言い方、納得できた伝え方…その差とは?」  
<https://h-navi.jp/column/article/35026704>
- 6) みらいジュニア (2017)「放課後等デイサービス利用者が急増、その理由は?」  
<https://eikaiwa.weblio.jp/mirai-junior/column/after-school/day-service-after-school/>
- 7) 通山久仁子 (2011)「発達障害のある子どもをもつ親をめぐる動向—その論点の整理のために—」西南女学院大学紀要 vol.15. pp55-65.